



EMBASSY OF THE REPUBLIC OF THE UNION OF MYANMAR, TOKYO



NEWSLETTER VOLUME NO. 1

DATED: 1st Feb. 2025

No.	表 題
1.	歴史あるダラ造船所の 150 周年記念式典に国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン 国軍総司令官が出席しスピーチを表明
2.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に駐ミャンマー イラン・イス ラム共和国大使が信任状を奉呈
3.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 ベラルーシ共和国外務大臣と 面会
4.	教育応用研究国際会議（2025 年）の開会式に国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン 国軍総司令官が出席
5.	国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 連邦政府会議に出席しスピー チを表明
6.	独立記念日 77 周年国旗掲揚式及び国旗敬礼式を開催
7.	国家統治評議会副議長ソー・ウィン国軍副司令官兼陸軍司令官 タイ王国陸軍司令官室 General Direk Bongkarn 率いる代表団と面会
8.	タン・スェ副首相兼外務大臣 バンコク駐在の H.E Mr. Nassereddin HEIDARI イラン・イスラ ム共和国大使と面会
9.	タン・スェ副首相兼外務大臣 バンコク拠点の国連プロジェクトサービス事務所（UNOPS）の アジア担当者 Mr. Sanjay Mathur 局長と面会
10.	タン・スェ副首相兼外務大臣 ブルネイ・ダルサラーム国を公式訪問
11.	ルイン・ウー外務副大臣 H.E.Dr.Md Monwar Hossain 駐ミャンマーバングラデシュ人民共和国 大使と面会
12.	ASEAN 統合イニシアティブ（ Initiative for ASEAN Integration-IAI ）研修を検討する調整 会議の開催
13.	商標審査官の能力開発ワークショップの開会式に駐日ミャンマー大使が出席しスピーチを表明
14.	ミャンマーからの技能実習生が働く日本の建設現場へ駐日ミャンマー大使が訪問
15.	ASEAN 外相非公式会合及び関連会合に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席
16.	2024 年国勢調査データに基づく暫定人口統計の発表
17.	国家統一・平和構築調整委員会と政党グループの作業部会による会合

18. タニンダーリ地方域でロブスタコーヒー農園を 1800 エーカー超拡大
19. ミャンマーは 2024 年 - 2025 年度 4 月から 11 月まで魚類 24 万トンを超えて海外へ輸出
20. タイでミャンマー産エビの需要が増加
21. タニンダーリ地方域で順調にコンニャク芋を栽培
22. 保税倉庫に保管することが許可される 5 つの輸入カテゴリのリストを商業省より発表
23. 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までの間にミャンマーは海外から 140 万トン以上の肥料と 2 万 6000 トン以上の農薬を輸入
24. 2024-2025 会計年度 4 月から 11 月までの 8 か月間にミャンマーのコメをインドネシアが最も多く購入
25. ミャンマー産のトウモロコシを免除で輸出
26. ミャンマーは 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までで海外へのエビ輸出で 2100 万ドルの収益を獲得
27. 2024-2025 会計年度の 4 月から 12 月までの 9 か月間で、US ドル 100 万以上相当のミャンマー産蜂蜜を輸出
28. ミャンマーは 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までに 15 万トンのゴムを海外に輸出
29. 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までの 9 か月間にミャンマーは 200 万トン以上の米を海外に輸出
30. ミャンマーのタナカの文化伝統をユネスコ世界遺産リストに申請
31. ヤダナーボン時代に建てられたマンダレーの黄金宮殿僧院（シュエナンドー僧院）
32. 2024 年ミャンマーの国内観光客数は 1000 万人に達する見込み

1. 歴史あるダラ造船所の 150 周年記念式典

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを表明

ネーピードー / 1 月 1 日

ヤンゴン地方域ダラ郡区の歴史あるダラ造船所 150 周年記念式典に国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官はスピーチの中で、ダラ造船所はミャンマーの海運部門の歴史の始まりの造船所で、伝統ある歴史的な造船所の一つであること、歴史的な証拠に基づいて「近代造船所の始まり」として記録に残されるべき造船所であること、そのような点で 150 周年記念式典が開催されたと述べました。

ミャンマーの国内海運業は、植民地時代のエヤワディ船団会社から生まれた国営企業体であること、エヤワディ船団会社によりダラ造船所が 1875 年 1 月 1 日に同社の管理下に置かれたこと、1948 年 6 月 1 日にエヤワディ船団会社が国有化されて以来、ダラ造船所は国内海運の歴史と共に存在してきた国営造船所となったと述べました。

国内海運 ダラ造船所は歴史ある造船所であるため、現在でも敷地内には古い建物や作業場、倉庫、ドックなどが残っていること、1880 年以前に建てられた古いディーゼルエンジン作業場の建物は、1920 年以前に建てられた作業場や建物などとともに今も残っていること、このような歴史的建造物を持続的に保存し活用する努力を認識し誇りに思うと述べました。

国内の海運部門の発展と歴史ある造船所の持続的な保存のために、さまざまな海運部門や組織が連携・協力し、国営造船所間での造船技術の交換や、技術の普及と海事規制の遵守を通じて海事分野の発展に取り組んでいること、内陸水路輸送には、河川輸送だけでなく、沿岸船舶や沿岸貨物輸送も含まれること、沿岸と河川の輸送を組み合わせ、旅客と貨物について安全で確実な輸送を管理すること、国の資金や市場状況、経済的収益性などを考慮し、ダラ造船所の能力を活用して、沿岸水路を經由した貨物輸送能力を高めること、本日開催されたダラ造船所の創立 150 周年を祝うにあたり、今後もダラ造船所のような歴史的な部門や工場、作業所などの建物の長期的な保存と保全に努めるよう述べました。

ダラ造船所は、国内海運業界が所有する造船所の中で最も古く、最も大きな造船所の 1 つであること、長年にわたり、国内海運業界の船舶のプロジェクトに応じたメンテナンスや、輸送ニーズと現地の海上状況に応じた船舶の設計と建造、造船および修理に必要な海洋機器や機械部品の生産、イノベーションやテスト、他部署や他部門からの造船・修理工事の受託などの業務を順調に遂行したこと、ダラ造船所は非常に古く歴史のある造船所であるように、工場や作業場、建物、倉庫、ドック、機械などは老朽化し非効率であるため、国家元首の指示の下、ドックの再建や新しい機器の設置、建物の改築が行われ、ダラ造船所は変化・発展する貿易システムを見失うことなく増加する人材に基づいて、国内海運の今後の目標と責務について引き続き取り組むことがわかりました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
ヤンゴン地方域ダラ郡の歴史あるダラ造船所の 150 周年記念式典でスピーチ



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
歴史あるダラ造船所の1000トン型新船を視察

2. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に 駐ミャンマー イラン・イスラム共和国大使が信任状を奉呈

(ネーपीドー／1月7日)

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に H.E. Dr. Nassereddin HEIDARI 駐ミャンマー イラン・イスラム共和国大使が、ネーピードーの国家統治評議会議長室 外交貴賓室で信任状を奉呈しました。

その後、両国間の友好関係と外交関係についてや、相互貿易の促進に関する事柄、科学技術分野、農業分野と防衛分野における協力強化の状況、文化交流に関する事柄、両国間の友好と協力をさらに強化させることについての状況、ミャンマーの政治情勢に関する事柄、自由かつ公正な選挙を実施するための準備状況、自由かつ公正な選挙を行うための法の支配の必要性や、選挙期間中に海外からオブザーバーを招聘する事柄などについて、親密に話し合いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
H. E. Dr. Nassereddin HEIDARI 駐ミャンマー イラン・イスラム共和国大使と面会



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官に
駐ミャンマー イラン・イスラム共和国大使に任命された
H. E. Dr. Nassereddin HEIDARI 大使より
信任状を捧呈

3. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 ベラルーシ共和国外務大臣と面会

(ネーपीドー／ 1月9日)

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官は、ベラルーシ共和国の H. E. Mr. Maxim RYZHENKOV 外務大臣とネーピードーの国家統治評議会議長室 外交貴賓室で面会しました。

会談では、両国間の友好と協力が良好である状況や、外交関係および貿易促進に関する事柄、教育分野、農業分野、畜産分野、製薬分野、産業分野と観光分野における協力の促進や、その他さまざまな分野での協力の推進、科学技術分野の奨学生の派遣に関する事柄、防衛に関する協力の促進、ミャンマーの政治的変化の状況、さらに自由かつ公正な選挙を実施するための準備の現状になどについて親密に話し合いました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
ベラルーシ共和国の H. E. Mr. Maxim RYZHENKOV 外務大臣と面会

4. 教育応用研究国際会議（2025年）の開会式に

国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席

教育応用研究国際会議（2025年）の開会式がネーपीドーのミャンマー国際コンベンションセンターIIで開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

国家統治評議会議長兼首相はスピーチの中で、国を創り、形づくるのはその国の国民であるため、知識と技術に富み、高い思考力を持った国民を拡大させることを目指していること、教育は正しいことや間違ったこと、良いことや悪いことなどの原因や結果を批判して分析できる知性が得られること、国民一人一人が「知」に満ちてこそ、国の利益を担う一大勢力を築くことができると述べました。

本日開催された教育応用研究国際会議（2025）では、国内外の著名な学者や研究者が基調講演を行い、知識を共有しました。教師教育部門、芸術科学教育部門、海洋地球科学部門、中小零細企業（MSME）および職業・技術教育訓練（TVET）部門、自然言語処理（NLP）、AIテクノロジーなどの主要5分野で100以上の論文が読まれ、提出され、議論されること、さらに、研究ポスター展示を通じて国際的な研究協力が強化されてきたことを誇りに思うこと、研究と開発部門は関連しているため、各国政府は研究活動を特別に奨励する必要があると述べました。

これらの大きな会議を通じて、お互いの知識や良いアイデアや知恵を共有すること、同じ話題の人たちや共通の興味分野を持つ人、同じような目標を持つ人々が研究プロジェクトに協力し、良い結果を発見できること、教材や指導方法を共有し、オンラインコースを作成し、学習リソースを改善することを奨励すること、特にあらゆることを探求し、その結果に基づいて研究活動を行いたいと考える若者にとって、このような研究会議を開催することが若者の研究文化を醸成するであろうと述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
教育応用研究国際会議（2025年）の開会式でスピーチを表明

5. 国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官 連邦政府会議に出席スピーチを表明

連邦政府会議が今朝、ネーピードーの国家統治評議会議長室の会議室で開催され、国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官が出席しスピーチを行いました。

まず初めに、国家統治評議会議長兼首相が開会スピーチの中で、私たち国家統治評議会政府が政権を担っている間に、国の発展のための将来のプログラムと方向性を策定し取り組んでいること、5つのロードマップは国家目標であり政治的なビジョンであること、9つの目標は政策であり政府の責務の本質であること、これら将来を見据えたプロセスと目標の実施状況を確認する必要があると述べました。

学齢期の生徒が確実に学校に通えるよう、政府はあらゆる取り組みを行っていること、しかし、さまざまな理由により学校に通う生徒の割合は依然として減少していること、各地方域や州で平和と安定が保たれているすべての郡区で、通学できる学生の割合を増やすよう取り組む必要があると述べました。

自国の経済を良好とするには、自らの努力に頼らなければならないこと、中小零細企業（MSME）の事業を奨励し、品質の高い輸出品の生産の増加に取り組む必要があると述べました。

中小零細企業の製品の生産拡大の潜在力が高い地域や地方で資金が必要となった場合、国家経済開発基金が資本融資を提供し、事業の加速を促すと述べました。

医療に関しては、すべての病院に医師を配置することが定められているが、一部の病院には医師がいないことが判明したため、関係地域が状況を確認し報告する必要があること、医療従事者が直面している困難について政府が対処すること、健康であればこそ勉強や仕事ができるのであり、国民は公衆衛生分野の向上に重点を置き取り組む必要があると述べました。

政治は経済ではないが、経済は政治であり国家の問題であること、経済が成長して初めて、政治、経済、社会、防衛が強化されるので、国民経済を強化するために全員が協力して取り組む必要があると述べました。



国家統治評議会議長兼首相ミン・アウン・フライン国軍総司令官
連邦政府会議に出席スピーチを表明

6. 独立記念日 77 周年国旗掲揚式及び国旗敬礼式を開催

ネーपीードー 1月4日

2025年 独立記念日 77周年国旗掲揚式および国旗敬礼式が、本日午前、ネーピーードー庁舎前の広場で開催されました。

式典は-

1. 連合の崩壊阻止、民族団結の崩壊阻止、永続的な主権の確保、武装勢力や異なる見解を合法的に対処すること。
2. すべての国民は、団結し連邦の精神で国家を守り、維持すること。
3. 真に規律ある民主主義制度を確立するために公正で、品位ある秩序正しい総選挙を再度実施すること。

4. 全国民の「集団の力」を通じて、連合全体の包括的かつ均衡のとれた発展を達成すること。

5. 「目標に向かって前進する」というスローガンに則って、政治、経済、防衛、国民性や国民の精神を育むために、強い熱意、尽力、勤勉さをもって団結し努力すること。

-これら独立記念日 77 周年における国家の目標に沿って有意義に開催されました。

まず初めに、午前 4 時 20 分に 2025 年 第 77 回独立記念日の国旗掲揚式典が行われ、各民族が囲む中、国旗掲揚小隊が国旗を掲揚しました。

そして、独立記念日 77 周年実施中央委員会の委員長である国家統治評議会副議長兼副首相ティリ・ピャンチー・マハ・タイェ・シートゥ・ソー・ウィン国軍副司令官が敬礼台に到着し、儀仗隊による敬礼を受けました。

その後、国家統治評議会副議長兼副首相ならびに独立記念日 77 周年祝賀会の参列者らは、儀仗隊とともにミャンマー連邦共和国の国旗に敬礼しました。

続いて、儀仗隊は戦争で命を落としたリーダーや同志に敬意を表し、4 つの宣誓を行いました。

その後、国家統治評議会副議長兼副首相ティリ・ピャンチー・マハ・タイェ・シートゥ・ソー・ウィン国軍副司令官は、国家統治評議会議長兼首相タトー・マハ・タイェ・シートゥ・タトー・ティリ・トゥダマ・ミン・アウン・フライン国軍総司令官から独立記念日 77 周年祝賀会に向けられたメッセージを読み上げました。

その後、国家統治評議会副議長兼副首相が儀仗隊からの敬礼を受け、式典は終了しました。



国家統治評議会副議長兼副首相ティリ・ピャンチー・マハ・タイェ・シートゥ・ソー・ウィン国軍副司令官が国家統治評議会議長兼首相タトー・マハ・タイェ・シートゥ・タトー・ティリ・トゥダマ・ミン・アウン・フライン国軍総司令官から独立記念日 77 周年祝賀会に向けられたメッセージを読み上げる



2025年 独立記念日 77周年国旗掲揚式を開催



出席した各民族が国旗に敬礼

7. 国家統治評議会副議長ソー・ウィン国軍副司令官兼陸軍司令官 タイ王国陸軍司令官室 General Direk Bongkarn 率いる代表团と面会

ネーピードー／1月21日

国家統治評議会副議長ソー・ウィン国軍副司令官兼陸軍司令官は、タイ王国陸軍司令官室諮問委員会議長兼近隣諸国調整センター（NCCC）長の General Direk Bongkarn 率いる代表团と1月21日午後、ネーピードーのバインナウンホールにて面会しました。

会談では、両国と両国軍の外交関係ならびに友好関係の良好な状況や、両国軍のリーダーや高官間の関係の向上と同様に、連携・協力も向上している状況、両国の国軍間のレベル別年次会合が順調に開催されている状況、国境地域で発生している人身売買や、オンライン金融詐欺を撲滅するための両政府と両国軍の協力の必要性、ミャンマーの海域で漁業を行うタイの違法な漁船や漁師に対するミャンマーの措置とそれを継続するプロセス、国境地域の平和と安定のための情報交換、さらに両国軍の高官間の友好訪問や協力の促進などについて親密に意見交換を行いました。



国家統治評議会副議長ソー・ウィン国軍副司令官兼陸軍司令官
タイ王国陸軍司令官室 General Direk Bongkarn 率いる代表团と面会

8. タン・スェ副首相兼外務大臣 バンコク駐在 H.E Mr. Nassereddin HEIDARI のイラン・イスラム共和国大使と面会

タン・スェ副首相兼外務大臣はバンコク駐在の H.E Mr. Nassereddin HEIDARI イラン・イスラム共和国大使と 2025 年 1 月 7 日午前 11 時にネーपीドの外務省の大臣室にて面会しました。

会談では、ミャンマー・イラン 二カ国間に既にある友好関係のさらなる向上や貿易と投資分野を含む両国の利益と協力を促進、地域と国際面において緊密に協力する事に関して意見交換を行いました。



タン・スェ副首相兼外務大臣 バンコク駐在の H.E Mr. Nassereddin HEIDARI イラン・イスラム共和国大使と親しく挨拶を交わす



タン・スェ副首相兼外務大臣 バンコク駐在の H.E Mr. Nassereddin HEIDARI イラン・イスラム共和国大使と面会

9. タン・スェ副首相兼外務大臣 バンコク拠点の国連プロジェクトサービス事務所 (UNOPS) のアジア担当者 Mr. Sanjay Mathur 局長と面会

タン・スェ副首相兼外務大臣はバンコクを拠点とする国連プロジェクトサービス (United Nations Office for Project Services-UNOPS) のアジア担当者 Mr. Sanjay Mathur 局長と 2025 年 1 月 16 日午前 10 時 30 分にネーピドの外務省にて面会しました。

会談では、国連プロジェクトサービスが実施している事業について意見交換を行い、ミャンマーと UNOPS の間の協力をさらに強化することに関して話し合いました。



タン・スエ副首相兼外務大臣 在バンコクの国連プロジェクトサービス事務所 (UNOPS) のアジア担当者 Mr. Sanjay Mathur 局長と面会

10. タン・スエ副首相兼外務大臣 ブルネイ・ダルサラーム国を公式訪問

ブルネイ・ダルサラーム国の H.E. Dato Seri Setia Haji Erywan bin Pehin Datu Pekerma Jaya Haji Mohd. Yusof 第二外務大臣の招待で、タン・スエ副首相兼外務大臣はブルネイ・ダルサラーム国のバンドルスリブガワン市へ2025年1月22日から23日まで公式訪問しました。

2025年1月22日午前中、バンドルスリブガワン市の外交地区にあるミャンマー大使館の新建設現場を訪れ、必要なことを指示し建物の礎石を据えました。その後、ミャンマーとブルネイの外交間の土地交換協定に基づき提供を受けた3区画の土地のうち、外交地区にある大使館所有の2区画を訪問し、ミャンマー大使館職員用住宅の建設状況を視察しました。

2025年1月22日夕方、受け入れ国であるブルネイ・ダルサラーム国の第二外務大臣は、副首相兼外務大臣率いるミャンマー代表団とルンビア・レストランで夕食会を開催しました。

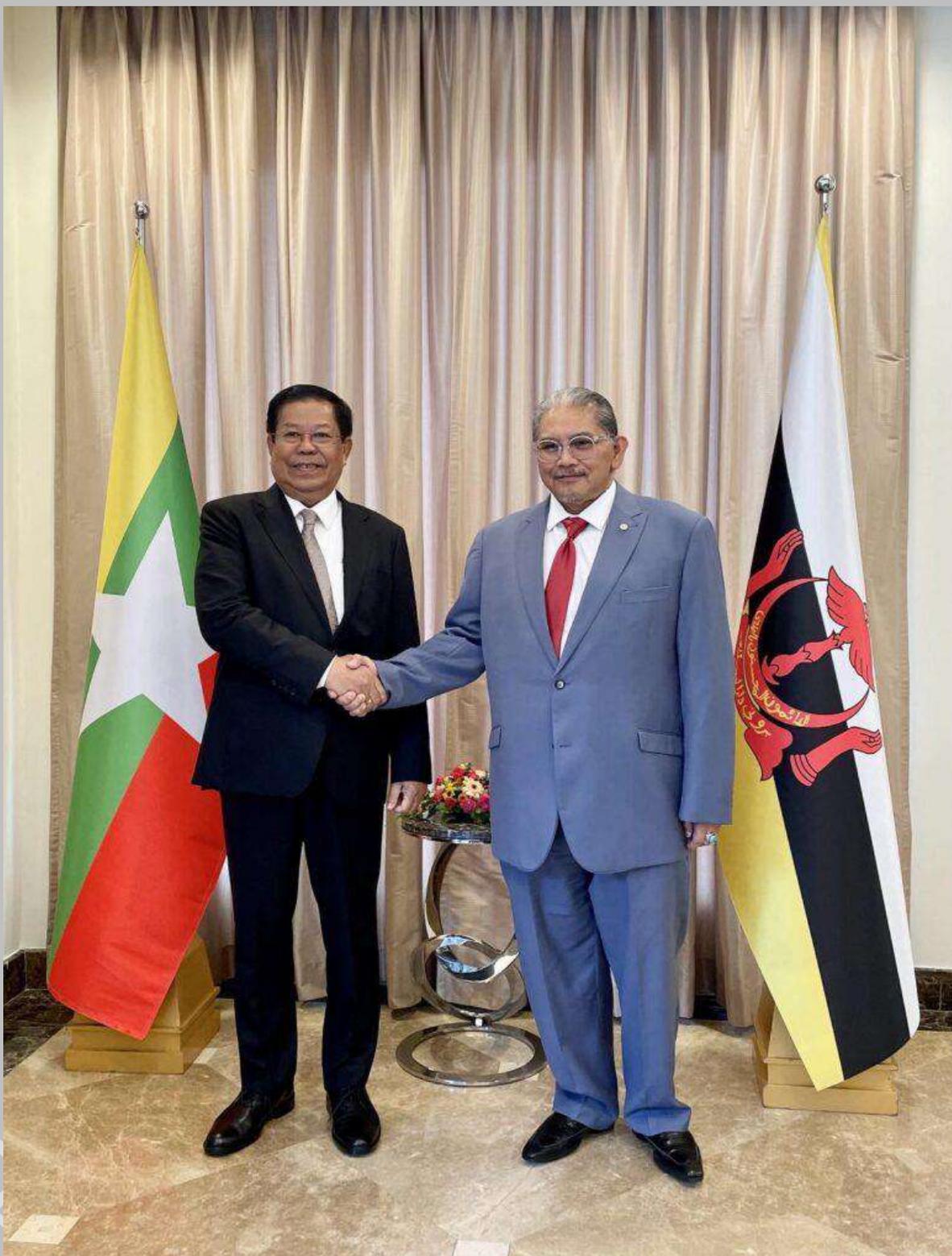
副首相兼外務大臣は2025年1月23日午前、ブルネイ・ダルサラーム国外務大臣と ASSARRAA VIP ゲストハウスヴィラ 2 にて会談した後、ワーキングランチに出席しました。同日午後、ブルネイ・ダルサラーム国の Istana Nurul Iman 宮殿でスルタン・ハジ・ハサナル・ボルキア・ムイッゼッディン・ワドゥラー国王を表敬訪問しました。会談では、両国間の多分野にわたる協力の促進、特に貿易、防衛、医療、教育や民間同士の人的交流などの分野での相互協力の強化、ASEAN を含む地域・国際面でのより緊

密な協力などについて、友好的かつ率直に意見交換を行いました。さらに、副首相兼外務大臣は、政府の平和、発展と民主主義に向けた取り組みやミャンマーの現在の進展について状況を説明しました。



タン・スェ副首相兼外務大臣 ブルネイ・ダルサラーム国のスルタン・ハジ・ハサナル・ボルキア・ムイッゼッディン・ワドゥラー国王に Istana Nurul Iman 宮殿にて表敬訪問

EMBASSY OF MYANMAR



ブルネイ・ダルサラーム国の H.E. Dato Seri Setia Haji Erywan bin Pehin Datu Pekerma Jaya Haji Mohd. Yusof 第二外務大臣 タン・スエ副首相兼外務大臣と親しく挨拶を交わす



ブルネイ・ダルサラーム国の第二外務大臣と副首相兼外務大臣率いるミャンマー代表团との夕食会

11・ルイン・ウー外務副大臣

H.E.Dr.Md Monwar Hossain 駐ミャンマーバングラデシュ人民共和国大使と面会

ルイン・ウー外務副大臣は H.E.Dr.Md Monwar Hossain 駐ミャンマーバングラデシュ共和国大使と2025年1月22日午前11時30分にネーピードの外務省にて面会しました。

会談では、経済連携の促進や、貿易、投資と観光分野で協力するための新たな計画を模索することや、両国の関係をさらに強化する機会について話し合いました。



ルイン・ウー外務副大臣 H.E.Dr.Md Monwar Hossain 駐ミャンマーバングラデシュ人民共和国大使と親密に挨拶



ルイン・ウー外務副大臣
H.E.Dr.Md Monwar Hossain 駐ミャンマーバングラデシュ人民共和国大使と面会

12. ASEAN 統合イニシアティブ（ Initiative for ASEAN Integration-IAI ）研修を検討する調整会議の開催

2024 年にミャンマー・シンガポール研修所で行われた ASEAN 統合イニシアティブ（Initiative for ASEAN Integration-IAI ）プログラムを検討するための調整会議が 2025 年 1 月 21 日に外務省のチン・ドウィンホールで開催されました。

調整会議では、ウー・コ・コ・チョー外務副大臣がスピーチを行い、その中で ASEAN におけるミャンマーの役割を強化すること、国内各部門との連携・調整を行うこと、ASEAN のメカニズムを通じて、各国の社会的利益、国の政策と優先事項を実行するために、さまざまな分野を担当する省庁間の協力を強化する方法を見つけるよう求めました。

外務副大臣は、ASEAN 統合イニシアティブ（IAI）は、ASEAN 加盟国間の開発格差を縮小するために CLMV（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）諸国の発展を優先する開発イニシアティブであり、シンガポールは ASEAN の開発援助、能力向上のために主に優先して支援をしていること、各省庁は 2024 年に受講した研修プログラムの弱点/長所を検討し、2025 年に各省庁のニーズをに合ったより効果的な研修プログラムを提案することを推奨しました。



2024 年のミャンマー・シンガポール訓練所で開設された ASEAN 統合イニシアティブ-IAI コースを検討する調整会議にてウー・コ・コ・チョー外務副大臣のスピーチ



13. 商標審査官の能力開発ワークショップの開会式に 駐日ミャンマー大使が出席しスピーチを表明

(2025年1月21日／東京)

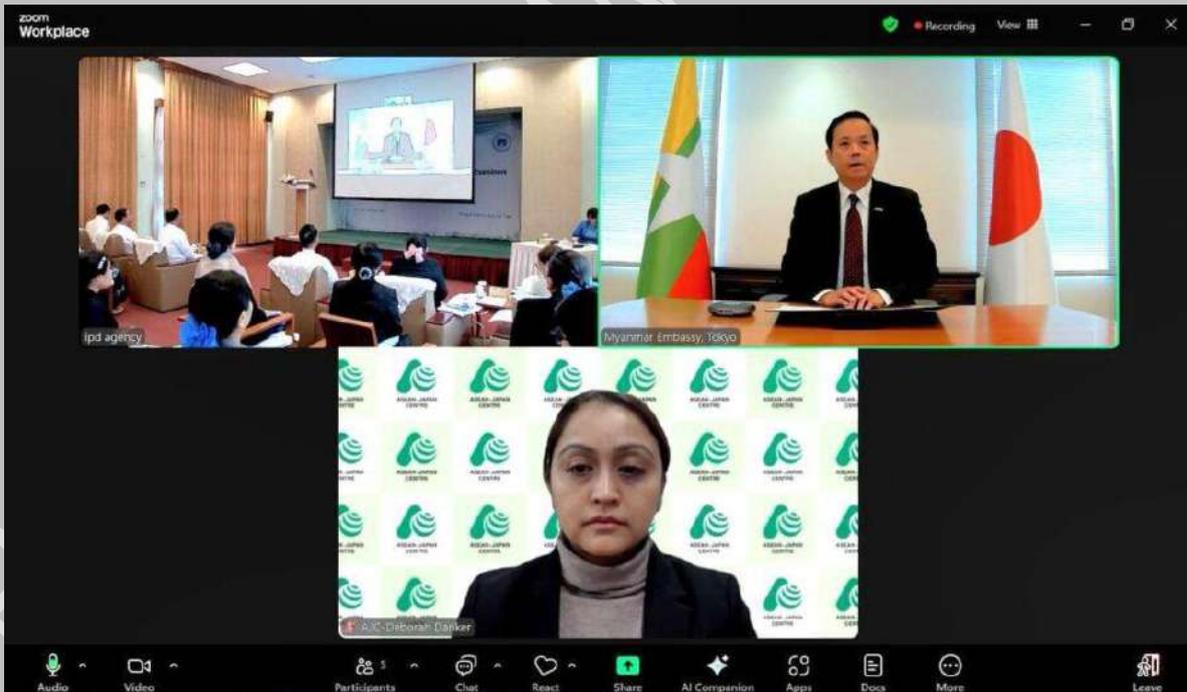
商業省、駐日ミャンマー大使館ならびに日本アセアンセンターが共催する商標審査官の能力開発ワークショップの開会式が2025年1月21日午前、ネーピードーのティンガハホテルで開催され、ソー・ハン駐日ミャンマー大使がオンラインで出席しスピーチを行いました。

開会式では、トゥン・オン商業大臣が開会の言葉を述べ、ソー・ハン駐日ミャンマー大使ならびに日本アセアンセンターの Ms. Deborah Nicole Danker ,Assistant Director of Research and Policy Advocacy Team がそれぞれスピーチを行いました。

ワークショップには商業省の担当者や研修生など70名が出席し、4日間にわたって開催される予定です。



日本アセアンセンターと共催の商標審査官の能力開発ワークショップの開会式に
ソー・ハン駐日ミャンマー大使がオンラインで出席しスピーチ表明



日本アセアンセンターと共催の商標審査官の能力開発ワークショップの開会式に
ソー・ハン駐日ミャンマー大使がオンラインで出席

14. ミャンマーからの技能実習生が働く日本の建設現場へ 駐日ミャンマー大使が訪問

ミャンマーからの技能実習生を募集している日本の監理団体である Enterprise United Co-operative (EUC) の招待により、ソー・ハン駐日ミャンマー大使が日本の大手建設会社である MUKAI Construction Co., Ltd 本社とミャンマーからの技能実習生が働く建設現場を 2025 年 1 月 16 日午前 10 時に訪問しました。

MUKAI Construction Co., Ltd 本社では、Enterprise United Co-operative (EUC) の Mr. Hanzaki Kazuhiro 会長からの歓迎の挨拶の言葉、ソー・ハン大使よりスピーチ、MUKAI Construction Co., Ltd の Supreme Advisor Mr. Toshio Mukai から挨拶の言葉が述べられ、MUKAI Construction Co., Ltd からミャンマー人技能実習生への技能研修の提供や、採用、雇用などについて説明がおこなわれました。

大使はスピーチの中で、EUC がミャンマー人技能実習生が日本の建設現場の状況を学ぶための採用について感謝していること、日本の建設分野や高齢者介護分野、食品産業分野、ホテルサービス分野など様々な分野におけるミャンマーからの技能実習生や特定技能人材の勤勉さや能力の高さに受け入れ先が満足していると聞き嬉しく思うこと、ミャンマー大使館は日本で働くミャンマー人技能実習生を含むミャンマー国民の利益と権利を守り、損失からの保護に取り組んでいると述べました。

同日午後、大使は東京の Tokiwa Bridge 建設現場を訪問し、ミャンマーからの技術研修生による作業を視察し、大使よりミャンマーの技術研修生に激励と歓迎のスピーチが述べられ、ミャンマーの食料品が贈られました。



MUKAI Construction Co., Ltd. よりミャンマー人労働者への技能訓練と採用に関して説明



大使より東京の Tokiwa Bridge 建設現場を訪問
ミャンマー技術研修生の作業を視察し激励



ミャンマーの技術研修生に大使よりミャンマーの食料品を贈呈

15. ASEAN 外相非公式会議及び関連会議に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席

2025 年 1 月 19 日 / マレーシア ランカウイ市

マレーシアのランカウイ市で 2025 年 1 月 19 日に開催された ASEAN 外相非公開会議に、外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席しました。会議には ASEAN 加盟国の外務大臣と ASEAN 事務総長が出席しました。

会議では、2025 年に ASEAN 輪番制議長国を務めるマレーシアの優先プログラムの実施計画について議論が行われ、ASEAN 外相らが ASEAN 諸国と、パートナー諸国との関係について議論し、さらに地域および国際情勢や ASEAN の 5 つの合意の実施状況などについて議論しました。ミャンマー代表団のリーダーから、ASEAN の 5 つの合意におけるミャンマーの協力や、国家の安定と選挙の実施に向けた政府の取り組みなどについて説明が行われ話し合われました。

2025 年 1 月 18 日に開催された ASEAN 高官会議に、外務省の ASEAN 局長率いるミャンマー代表団が出席し、ASEAN 共同体ビジョン 2045 の草案作成状況や、ASEAN 友好協力条約への加盟申請の状況、ASEAN 対話パートナーとの関係の現状について議論しました。ミャンマーは ASEAN・ロシア対話関係調整国として、双方の関係を向上させる道筋の模索について議論しました。



集合写真撮影



ASEAN 外相非公式会議及び関連会議に外務事務次官率いるミャンマー代表団が出席

16. 2024 年国勢調査データに基づく暫定人口統計の発表

2024 年人口・世帯国勢調査のデータに基づき、先だって人口国勢調査発表式典が、午前 9 時 30 分にネーपीドーのミャンマーコンベンションセンター II (MICC-2) で開催されました。

中央国勢調査委員会委員長のミン・チャイン入国管理・人口大臣は、この国勢調査は他の人口調査の記録とは異なり、長時間、多額の資金で行われ、体系的な管理を必要とする国家プロジェクトであること、国勢調査は 2024 年 9 月 30 日午前 0 時を国勢調査基準時として、10 月 1 日から 15 日まで実施されたが、治安や交通事情により、一部地域では国勢調査が延長され行われたと述べました。

主要報告書は詳細に集められ、2025 年末までに公表される予定であること、ネーピードーや地方域、州ごとの報告書や分野別の研究論文などもまとめられ、段階的に発表されること、今回の国勢調査は、治安や交通事情により、部分的な国勢調査しか実施できない郡区や、国勢調査を全く実施できない郡区もあること、データを収集できない地域の人口は人口統計や、リモートセンシング技術 (Remote Sensing)、国際コンサルタントによる推計、部局統計等を用いて推定人口を算出したと述べました。

それにより、2024 年の人口・世帯国勢調査から得られたミャンマー国内の人口は、5131 万 6756 人であること、このリストには、国勢調査から得られた人口 3219 万 1407 人と、国勢調査を実施できなかった地域の推定人口 1912 万 5349 人が含まれていること、このうち 1510 万 5215 人が男性で、1708 万 6192 人が女性であり、男性が 46.9%、女性が 53.1%であること、人口比率を見ると、ヤンゴン地方域の人口が 14.4%で最も高く、カヤー州の人口が 0.6%で最も低いことがわかること、ミャンマーの人口の推移を見てみると、1891 年の国勢調査ではわずか 770 万人で、1901 年は 1050 万人に達し、1921 年は 1320 万人、1973 年は 2890 万人、1983 年は 3530 万人、2014 年は 5150 万人で、2024 年には国勢調査を実施できなかった地域の推計を含めたミャンマーの人口は 5130 万人超であり、これは 10 年前の人口よりわずかに減少したこと、人口変化の要因は出生、死亡、移動の 3 点であり、主な報告書が発表される際に原因が調査され特定されるだろうと説明しました。



中央国勢調査委員会委員長のミン・チャイン入国管理・人口担当大臣
2024年の人口・世帯国勢調査から得られたデータについて説明

17. 国家統一・平和構築調整委員会と政党グループの作業部会による会合

ネーपीドー 1月23日

国家統一・平和構築調整委員会（NSPNC）と政党グループの作業部会は、2025年1月23日にネーピードーの国家統一・平和構築センターで会議を開催しました。

会議に、国家統一・平和構築調整委員会委員長で国境大臣であるトゥン・トゥン・ナウン中将ならびに調整委員会のメンバーや、政党グループの作業部会リーダーである人民党のウ・コ・コ・ジー代表と作業部会の代表者が出席しました。

まず初めに、国家統一・平和構築調整委員会委員長であるトゥン・トゥン・ナウン中将が、改正すべきと考える憲法（2008年）の条項について政党と協議した状況や、選挙の実施に関する政党の意見に対する必要な措置の状況、国民の間に平和プロセスを広め、安定と平和を構築できるよう取り組む事柄、NCA（全土停戦協定）に基づく和平プロセスの現状と今後取り組むべきプロセス、さらに現在の政治情勢や、自由かつ公正な複数政党による民主的な総選挙の成功に関連する事柄などについて説明しました。

続いて、政党グループの作業部会リーダーであるウ・コ・コ・ジー氏が挨拶の言葉を述べ、国家統一・平和構築調整委員会事務局長であるミン・ナイン中将が会議開催

の目的と議題、ならびに現在の政治情勢や政党の役割の重要性、NSPNC と政党が協力を継続できる状況などについて説明しました。

会議は2日目の2025年1月24日にも引き続き行われ、全体討論では、政党代表者が2025年の選挙に関する事柄や、国の平和と安定を構築するために取り組むべき措置についての助言や議論に関する事柄、国民のニーズを法的に満たすことに関する事柄、現在の政治情勢や政府と国民が共に乗り越える事柄、政治的喧伝により生じた多くのPDFが国側に戻るよう提言することや、徴兵法に基づいた採用数拡大に向けた提言などが話し合われ、出席者の間で活発な議論が交わされました。

2日間の会議の後、最終合意事項が批准され署名が行われたほか、さらなる議論が必要な双方の提案や、双方で調整が必要な意見は、集約として記録されました。



国家統一・平和構築調整委員会（NSPNC）と政党グループとの会合

18. タンダーリ地方域でロブスタコーヒー農園を1800エーカー超拡大

2024年タンダーリ地方域で、国際市場への輸出が可能なロブスタコーヒーの農園面積を1874エーカーに拡大すると農業局より発表がありました。

2023-2024会計年度のミャンマーのコーヒー栽培面積は1148エーカーで、2024-2025会計年度において3022エーカーにまで増加しました。現在、ダウェイ地区で470エーカー、ミエイで1200エーカー、ボクピンで845エーカー、コートウンで507エーカー

の土地でコーヒーが栽培されています。2024年11月現在、53エーカーの土地で収穫が完了し、1エーカーあたり127ペイタで収穫量は合計6760ペイタとなりました。昨年の同時期には、290エーカーのコーヒー農園から4万3386ペイタが生産されました。

ロブスタコーヒーは赤道に近い地域で良好に栽培されていることが知られており、タニンダーリ地方でもロブスタコーヒーがうまく栽培されていることが知られています。ロブスタコーヒーは植えてから4-5年で収穫できます。収穫期は12月から1月であることが知られています。ミャンマーはコーヒー豆を海外に輸出しています。

コーヒーは、ゴムやキンマなどの多年生作物の間作として栽培されています。農業局は、種子や農業システムを提供することで農家の収穫量を増やし、収入を向上させること、さらに地域住民の雇用機会を創出し、社会経済生活を向上させることに取り組んでいます。

Source: The Global New Light of Myanmar (17-12-2024)



19・ミャンマーは2024年－2025年度4月から11月まで
魚類24万トンを海外へ輸出

2024年－2025会計年度、4月から11月までの8カ月間にミャンマーから海外へUSドル2億5660万相当の魚類24万トンを輸出したと水産省より報告がありました。

2024年－2025会計年度4月から11月までの8カ月間にミャンマーから海外への魚類の輸出は前年同期と比較するとUSドル3900万以上増加しました。

ミャンマーは水産物を中国、タイ、バングラデシュや日本を含む40カ国以上の国に海上ゲートや国境ゲートを通じて輸出しています。

ミャンマーはガタラウ（ヒルサ）、ナマズ、アカメ、コイ、ウナギ、エビ、カニなど魚介類を海外へ輸出販売しているとミャンマー漁業連盟より発表されました。ミャンマーには水産加工工場が140以上あります。

Source: The Global New Light of Myanmar (20-12-2024)



20. タイでミャンマー産エビの需要が増加

ミャンマー産のキングというエビがヤンゴン経由でタイに輸出されており、現在、需要が増加しています。キングエビ、ロブスターやガタラウ（ヒルサ）などがヤンゴンからタイへ空輸されています。

現在、キングエビの需要が最も高く、ロブスターとガタラウ（ヒルサ）もタイに多く輸出し需要が伸びています。重さ1キログラムを超えるガタラウ（ヒルサ）は1ペイターあたり約25万チャットまで高値で取引されていることが知られています。

タイでのキングエビの消費量が増加しているため、ミャンマーの貿易業者もタイへのエビの輸出に関心を持っています。

Source: The Global New Light of Myanmar (12-12-2024)



21・タニンダーリ地方域で順調にコンニャク芋を栽培

タニンダーリ地方域でビジネスとしてのコンニャク芋の生産販売が増加し、コンニャク芋が順調に栽培されています。タニンダーリ地方域の地元民は、ゴムとキンマの実等の多年生作物を主に栽培し、現在はコーヒーやコンニャク芋、カカオの木を間作として栽培しています。コンニャク芋は国内で販売され、さらに乾燥したコンニャクは粉末とし付加価値的な生産として、日本、タイ、中国に輸出されています。コンニャクにはグルコマンナン食物繊維が豊富に含まれています。コンニャクの原材料は食品、飲み物、化粧品、漢方薬、薬品などの生産に使用されています。さらに商品にならない残った部分は動物用食料としても使用されています。

コンニャク芋は5月から6月まで栽培され12月に収穫します。栽培費用は1エーカー600万チャット、販売価格は1エーカーに1000万チャットから1200万チャットまでとなっています。ミャンマーではチン州でコンニャク芋が最も多く栽培され、カチン州、シャン州、モン州、カイン州、チン州、バゴー地方域、タニンダーリ地方域でも栽培されています。高い利益を得ることができ、海外からの需要も増加しているため、コンニャク芋の栽培は増加しています。

ミャンマーではコンニャク芋を、イェーピュー、カレインアウン、ダウエイ、タイエチャウ、プロウ、ミエイ諸島、タニンダーリ、パラウ、ボウピイン、モータウン等のエリアでも栽培しています。

Source: The Global New Light of Myanmar (22-12-2024)



22. 保税倉庫に保管することが許可される5つの輸入カテゴリのリストを 商業省より発表

ミャンマー商業省貿易局は、686の関税品目とCMPシステム(裁断、縫製、包装)を通じて輸入する原材料やその他の関連機器を含む5つの輸入カテゴリのみが、2025年1月1日から保税倉庫での保管が許可されると発表されました。

商業省は、4つの輸入カテゴリの1100の関税品目のみが、税関検査を必要とせずに保税倉庫に輸入されることが認められる事を2024年5月30日に輸出入公報第2/2024号で発表しています。これら4つの輸入カテゴリの1100の関税品目の保税倉庫への保管は2024年12月31日までのみ許可されます。

商業省は2025年1月1日から、輸入原材料やアパレル産業向け機械など、686の関税品目と5つの輸入カテゴリのみを保税倉庫での保管を許可しています。商業省が保税倉庫への輸入を許可する5つの輸入カテゴリには、110品目の医薬品関連品、各種電気自動車(乗用車 - 国家レベルの電気自動車及び関連事業の発展に関する指導委員会が定める標準グレードを超えないもの)、タクシー、公共車両、商用車及び自動車部品(12品目)、工業用原料及び化学品(539品目)、食品原料と関連品目(25品目)、CMP原材料及び関連機器などが含まれます。

CMPシステムで輸入された原材料と関連機器は2024年12月1日から保税倉庫への保管が許可されています。さらに、国家レベルの電気自動車及び関連産業発展指導委員会の標準基準を超える高価値の電気乗用車の税関倉庫での保管は2025年1月31日までのみ許可されます。タクシー、公共車両および商用車は従来通り引き続き保管が許可されるということです。

23. 2024-2025 会計年度 4月から 12月までの間にミャンマーは海外から 140万トン以上の 肥料と 2万 6000 トン以上の農薬を輸入

2024-2025 会計年度 4月から 12月までの間、ミャンマーは海外から 140万トン以上の肥料を輸入したと尿素肥料調達・流通運営委員会より発表がありました。

尿素肥料調達・流通運営委員会は、海外からの肥料、農薬の購入・輸入のための輸入ライセンスの取得について、今後も評価・支援を行っていくということです。ミャンマー肥料・種子・農薬企業家協会として、各企業が定められた輸入量どおりに輸入できるかを監視し、許可証は実際に輸入できる企業にのみ付与されるということです。

尿素肥料調達・流通運営委員会は、地域や州における基準価格での肥料の販売を監督しており、同様に、基準価格を上回る販売や肥料の備蓄や市場操作についても、関係部署と連携し把握を進めています。尿素肥料調達・流通運営委員会は、高品質な肥料を継続的に供給するために3か月ごとに会合を開いています。運営委員会は、肥料技術グループから承認を受けた企業に対し肥料輸入ライセンス11573件を審査し承認しました。自主的に輸入許可が取り消された件数は1957件、有効期限切れにより当局が取り消したライセンスの数は2793件です。現在、3823の企業が肥料輸入ライセンスの取得手続き中であるとのことです。

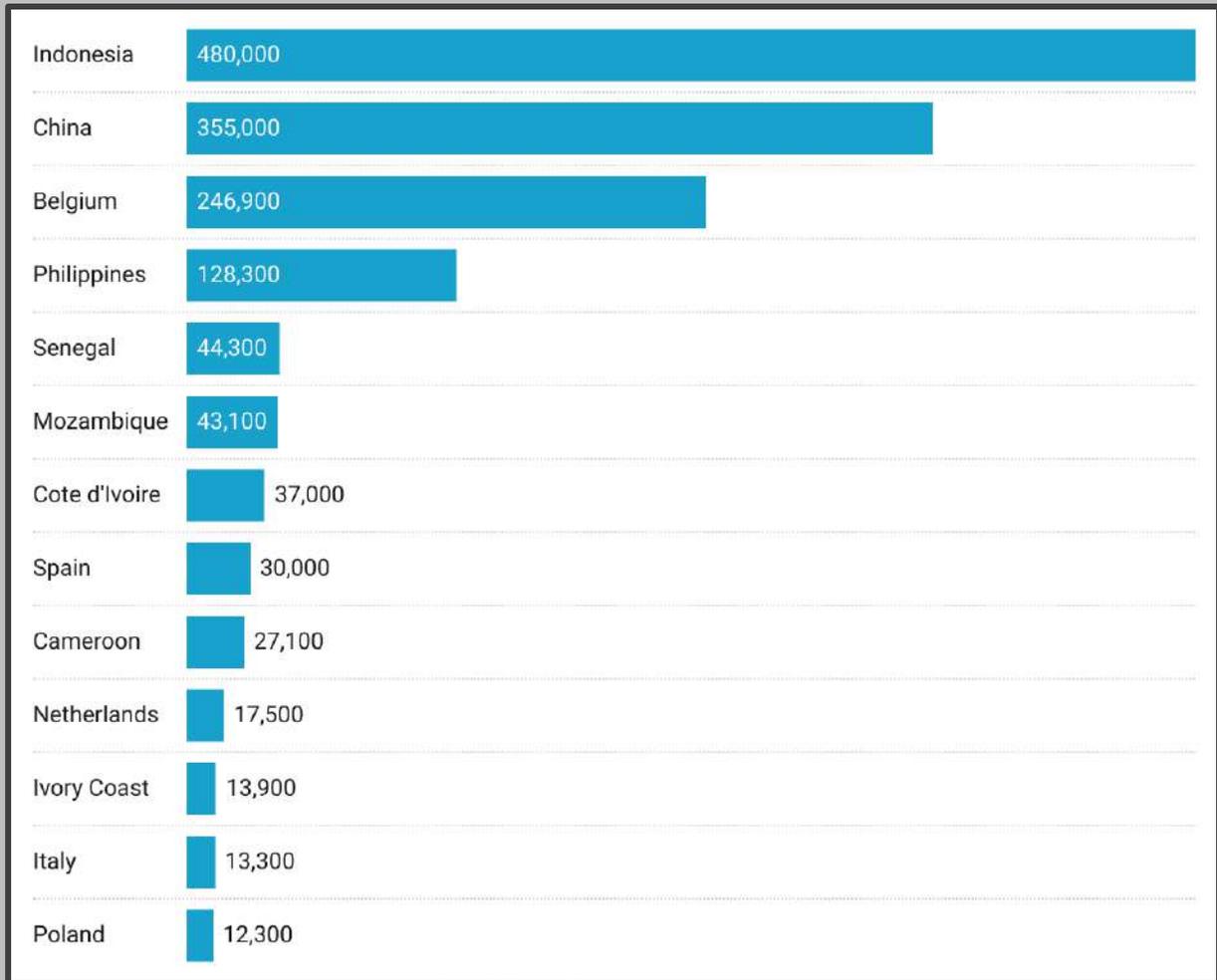
Source: The Global New Light of Myanmar (6 January 2025)



24. 2024-2025 会計年度 4 月から 11 月までの 8 か月間に ミャンマーのコメをインドネシアが最も多く購入

2024-2025 会計年度 4 月から 11 月までの 8 か月間にインドネシアに 48 万トンを超えるミャンマーのコメが輸出され、最も多くの輸出が行われたとミャンマー米穀連盟より発表がありました。

ミャンマーにおける 2024-2025 会計年度 4 月から 11 月まで 8 か月間のコメの輸出状況は以下の図の通りです。



2024-2025 会計年度 4 月から 11 月までの 8 か月間に、US ドル約 8 億 400 万相当、170 万トン以上のコメと割れ米が海外に輸出されたとミャンマー米穀連盟より発表がありました。

ミャンマー米穀連盟は 2024-2025 会計年度に 250 万トンのコメを輸出する事を目標としています。商業省はコメの輸出目標の達成のために、コメ、割れ米、豆類、トウモロコシ、ゴム・水産物に関する企業の輸出可能量に基づいて、関係部署と組織間で調整を行っています。

商業省は、ミャンマー商工会議所、ミャンマー米穀連盟、ミャンマー豆類・トウモロコシ・ゴマ貿易協会、ミャンマー縫製業者協会、ミャンマー工業製造者協会、ミャンマーゴム生産者協会、ミャンマー水産物生産輸出業者協会などと協力して、順調な輸出の促進と輸出目標の達成に取り組んでいます。

ミャンマー米穀連盟として、2023-2024 会計年度に 250 万トンのコメを輸出し、US ドル 10 億の収益を目標としていましたが、輸出されたコメは 160 万トンで、US ドル 8 億 4500 万の収益にとどまりました。

2022-2023 会計年度（4月から3月）にミャンマーは226万1203トンの米と割れ米を輸出しUSドル約8億5347万2000獲得しています。

Source: The Global New Light of Myanmar (3-1-2025)



25・ミャンマー産のトウモロコシを免税で輸出

ミャンマーのトウモロコシ輸出業者はタイに免税でトウモロコシが輸出できるように取り組んでいます。タイは2024年2月1日から8月31日までの間にフォームD (Form-D) でミャンマーから輸入されたトウモロコシの関税の免除を許可しました。

タイ政府は、タイ国内でのトウモロコシの生産時期に、海外からのトウモロコシに最大73%の関税を課すことで国内のトウモロコシ農家を保護しています。そのため、ミャンマーのトウモロコシ輸出業者はトウモロコシを保管し、免税を得られる時期に輸出するよう取り組んでいます。

ミャンマー産のトウモロコシはインド、フィリピン、ベトナムへ海路を通じて輸出され、国境を通じて近隣国にも輸出されています。中国はミャンマー産のトウモロコシを代替開発プログラム (Alternative Development Programme) により国境を通じて購入しています。中国は、2023年末からミャンマー産のトウモロコシを正式に購入しており、現在ミャンマーの112社が中国へのトウモロコシ輸出の許可を得ています。

ミャンマーは毎年海外へトウモロコシ200万トン以上を輸出しています。ミャンマーではトウモロコシをシャン州、カチン州、カヤー州、カイン州、マンダレー地方域、サガイン地方域とマグウェ地方域で主に栽培しています。ミャンマーはトウモロコシを一年中栽培しており、年間の生産量は250万から300万トンほどです。

Source: The Global New Light of Myanmar (17-1-2025)



26. ミャンマーは2024-2025会計年度の4月から12月までで
海外へのエビ輸出でUSドル2100万の収益を獲得

ミャンマーは2024-2025会計年度4月から12月までの間に、USドル2100万相当のエビ6250トンを経外に輸出したこと、5070トンのエビUSドル1450万相当が海上輸出され、USドル650万相当のエビ1170トンが国境を越えて輸出されたと商業省より発表がありました。

ミャンマーのエビは日本、バングラデシュ、中国、タイを含む40カ国以上に輸出されています。ミャンマーは2024-2025会計年度の4月から11月までの間に24万トン以上の魚類を輸出し、USドル2億5,660万の収益を獲得しました。2024-2025会計年度の最初の8か月間の魚類の輸出額は前年同期よりUSドル3934万4000増加したと漁業局より発表がありました。

Source: The Global New Light of Myanmar (15-1-2025)



27. 2024-2025 会計年度の 4 月から 12 月までの 9 か月間で、US ドル 100 万超相当 のミャンマー産蜂蜜を輸出

ミャンマーは 2024-2025 会計年度の 4 月から 12 月までの 9 か月間で、1100 トン以上、US ドル 170 万 4000 相当の蜂蜜を輸出したことが畜産治療部 養蜂開発課より発表されました。

ミャンマー産の蜂蜜は中国、日本、韓国、タイに主に輸出されており、2023-2024 会計年度には 2200 トン以上の蜂蜜を海外に輸出しました。

ミャンマーでは、主にザガイン地方とマンダレー地方で養蜂が行われており、ヤンゴン地方域、バゴー地方域、マグウェ地方域、カチン州、カヤー州、カレン州とシャン州でも養蜂活動が行われています。ミャンマーでは、ごま蜂蜜 (Sesame Honey)、ナツメ蜂蜜 (Jujube Honey)、キツネノマゴ蜂蜜 (Niger Honey)、ひまわり蜂蜜 (Sunflower Honey)、ライチ蜂蜜 (Lichee Honey) とフラワー蜂蜜 (Flower Honey) が生産されており、年間 4000 トン以上の蜂蜜を生産しています。

年間蜂蜜生産量の 60% が輸出され、40% が国内で販売されています。地元では、蜂蜜は伝統的な薬として使用されています。

現在、ミャンマーの 31 の郡区にある政府所有の養蜂キャンプでは 6200 個の蜂の巣が飼育されており、950 社以上の民間養蜂会社が約 20 万個の蜂の巣を飼育しています。

さらに、ミャンマーの 200 万エーカー以上の作物栽培も毎年ミツバチの受粉を支えており、畑の近くで養蜂を行うと、作物の収穫量が向上し高品質の蜂蜜が生産されることが知られています。

Source: The Global New Light of Myanmar (12-1-2025)



28. ミャンマーは 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までに 15 万トンのゴムを 海外に輸出

ミャンマーは 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までに 15 万トン以上のゴムを海外に輸出したとミャンマーゴム生産者協会より発表されました。

ミャンマーゴム生産者協会は 2024-2025 会計年度に 30 万トン以上のゴムの輸出を目指しています。ミャンマーで生産されるゴムの 70%は中国に輸出されており、シンガポール、インドネシア、マレーシア、ベトナム、韓国、インド、日本をはじめとする海外にも輸出されています。

ミャンマーではゴムはモン州、カレン州、タニンダーリ地方域、バゴー地方域とヤンゴン地方域で主に栽培され生産されています。2018-2019 会計年度のデータによると、ミャンマーにおけるゴム農園はエーカー162 万 8000 以上あり、その中でモン州には 49

万 7153 エーカー、タインダーリ地方域には 34 万 8344 エーカーとカレン州に 27 万 760 エーカーあることがわかっています。

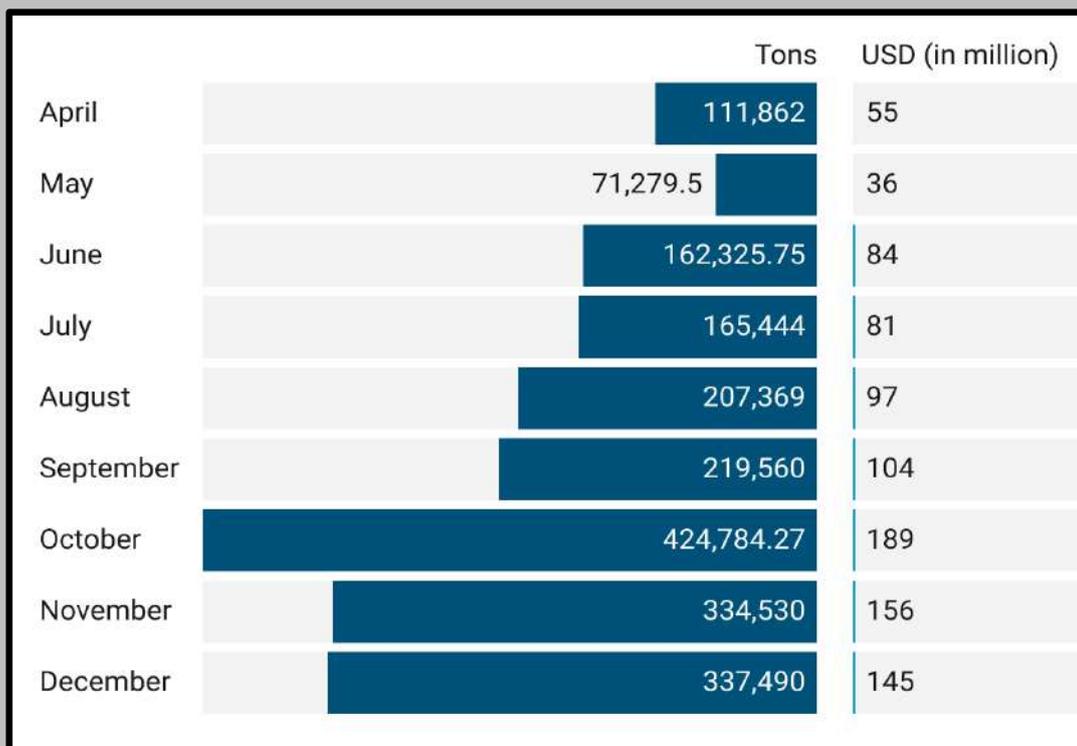
Source: The Global New Light of Myanmar (1-1-2025)



**29. 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までの 9 か月間に
ミャンマーから 200 万トン以上のコメを海外に輸出**

2024-2025 会計年度の 4 月から 12 月までの 9 か月間に、US ドル 9 億 4800 万相当のミャンマーのコメと割れ米 203 万トン以上が海外に輸出されたとミャンマー米穀連盟より発表がありました。

ミャンマーにおける 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までの 9 か月間のコメの輸出状況は以下の図の通りです。



ミャンマーは 2024-2025 会計年度 4 月から 12 月までの 9 か月間に、200 万トンを超えるコメを海上輸送し、国境からも 3 万トン輸出しました。

ミャンマー米穀連盟として、2023-2024 会計年度に 250 万トンのコメを輸出し、US ドル 10 億の収益を目標としていましたが、実際に輸出されたコメは 160 万トンで、US ドル 8 億 4500 万の収益にとどまりました。

2022-2023 会計年度 (4 月から 3 月) にミャンマーは 226 万 1203 トンの米と割れ米を輸出し US ドル約 8 億 5347 万 2000 の収益を上げました。

Source: The Global New Light of Myanmar (9-1-2025)



30. ミャンマーのタナカの文化伝統をユネスコ世界遺産リストに申請

考古学・国立博物館局によると、同局は、ミャンマーの伝統的なティンジャン祭りのように、ミャンマーの伝統的なタナカ文化をユネスコの無形文化遺産リストに登録できるよう取り組んでいます。

考古学・国立博物館局は現在、ミャンマーのタナカ文化伝統を2025年3月31日までにユネスコ世界遺産リスト（ユネスコ無形文化遺産）に申請する準備を進めています。申請調整チームは、1月15日から17日までの提出に向けての提案書（ICH-02）の準備を開始しました。

ミャンマーには多くの無形文化遺産がありますが、世界無形文化遺産リストに登録されているものはありません。しかしながら、ミャンマーのタナカは1000年以上の間、伝統的習慣として世代から世代へと受け継がれており、今日でもミャンマーの伝統的なタナカの芸術は国の重要な文化的シンボルとして存在し続け、大切に保護されています。

ミャンマーのタナカは、ユネスコ無形文化遺産リストに登録される5つの基準を満たしており、2020年1月から無形文化遺産として指定されるよう、提案が行われています。



ミャンマーの最高級のタナカ

31. ヤダナーボン時代に建てられたマンダレーの黄金宮殿僧院 (シュエナンドー僧院)

マンダレー /1月 21日

1878年10月1日のミンドン王の逝去後、息子のティーボー王は10月13日にミャナンサンチャー黄金宮殿のマン宮殿の北側にある、父ミンドン王の宮殿や王邸を計画的に解体しました。1883年10月31日、現在のシュエチャウンの所在地に僧院として移築され寄贈されました。シュエナンドー僧院は130年以上の歴史があり、マンダレー地方域アウンミェターザン郡区ドーナブワ区に存在します。19世紀コンバウン時代のビルマ建築様式が採用されており、当時の銀貨で12万チャットの費用がかかりました。宮殿から僧院に移築されたのでシュエナンドー僧院と名付けられていますが、僧院の内外全体が金で覆われていたため、シュエ・チャウン（黄金僧院）と呼ばれるようになりました。

僧院全体には東西に15列の柱と南北に10列の柱があり、合計150本の柱があります。東西116フィート、南北71フィート、高さは60フィート、龍を象った柱54本とタイェキンというレンガの階段5段で建てられています。黄金僧院全体には内外くまなく豪華な建築技術が施されています。芸術的なデザインや壁のレリーフ、10の主要な物語を描いたレリーフなどを観ることができます。僧院内の柱の基部には、10の主要な物語を描いたレリーフが、1つの物語ずつ各基部に彫られています。

さらに、黄金寺院内の木の柱には仏陀の生涯における10の偉大なジャータカが、6フィート4インチ、厚さ3インチのチークの板上に複雑な花のモチーフで彫られており、それは長期間の耐久性を持っています。

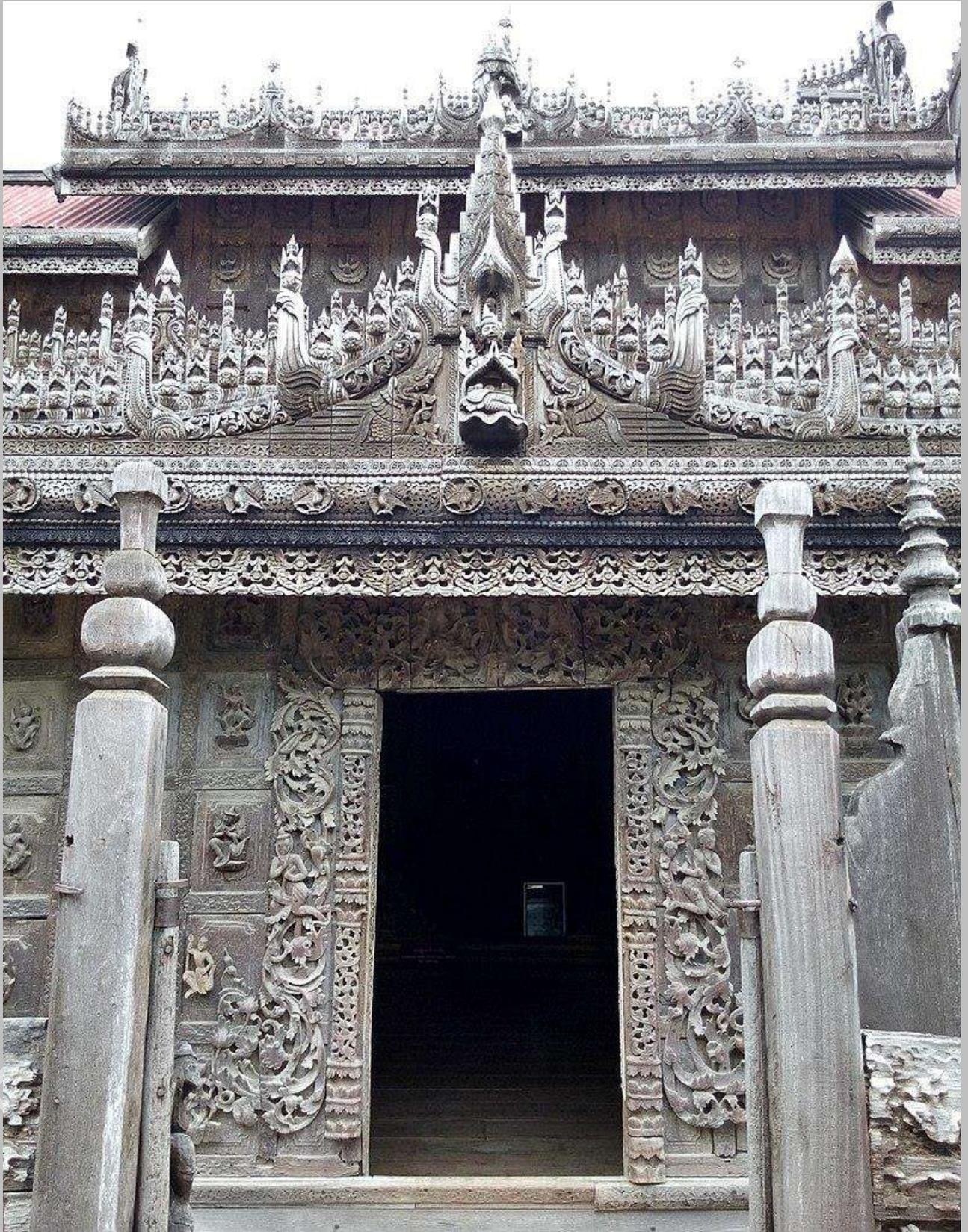
黄金宮殿は第二次世界大戦中も壊れることなく残り続いた、10種類の伝統的なミャンマーの技術を一か所で鑑賞・体験できる文化的に重要な場所です。



シュエナンドー僧院



シュエナンドー僧院の内部



シュエナンドー僧院の入り口



シュエナンドー僧院の回廊

32. 2024年ミャンマーの国内観光客数は1000万人に達する見込み

2024年、ミャンマーの国内観光客数は大幅に増加し、1000万人に達すると予想されるとホテル観光省ホテル観光局より発表されました。

2024年は海外からの旅行者の減少にもかかわらず、国内の観光客数は大幅に増加しました。コロナ禍以前は国内観光客数は、500万人を超えていましたが、現在はほぼ倍増し約1100万人に達しています。2024年には国内観光客は、シャン州やヤンゴン、マンダレー、ネーピードー、チャイティヨー、パアンやバゴーなどに最も多く訪れ、今後数か月間で、マグウェやシュエセッターを訪れる人々が増えることが予想されています。

国内観光客は、ヤンゴン地方域、バゴー地方域、エーヤワディ地方域、マンダレー地方域、ネーピードー、シャン州、モン州に最も多く訪問していることがわかりました。

Source: The Global New Light of Myanmar (24-1-2025)



EMBASSY OF MYANMAR